

2019年8月7日

立教大学国際学術研究交流制度
2019年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	観光学部・教授
	氏名	杜 国慶
受入学部・研究科・研究所		観光学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, School of Travel Industry Management, University of Hawai'i at Mānoa 所属機関所在国：米国
	氏名	Kwanglim Seo
招へい期間		2019年6月28日～2019年7月28日（31日間）
研究経費		592,450 円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2019年6月28日	来日
7月1日1限	講義 Travel Industry in Hawaii N846 教室 参加者 25 名 ※
7月1日3限	講義 Introduction to Revenue Management N846 教室 参加者 25 名 ※
7月4日2限	講義 Marketing Research of Potential Hawaii Visitors N842 教室 参加者 20 名
7月10日	1年生アカデミック講演会 N121 教室 Hospitality and Tourism Education in the University of Hawaii 参加者 190 名
7月15日3限	演習（杜ゼミ）ワークショップ N841 教室 参加者 10 名
7月22日	観光学研究科修士論文中間報告指導 N852 教室 参加者 40 名

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

Kwanglim SEO 先生の訪問は計画通りに実施され、支障なく終了した。

まず、SEO 氏の研究成果は日本の観光研究でも注目されているもので、観光研究について交流することが実現できた。とくに、SEO 氏が近年行ってきた「ホームレスが観光に与える影響」、「マーケティング分析による潜在観光者層」、「レンタルハウスの観光効果」などの研究は、斬新な視点から観光の社会経済効果にアプローチすることが評価すべきであり、本学の観光研究にも示唆する点が多い。

7月1日に行われた2回の講義には本学部の学部生と学部協定校ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、タマサート大学（タイ）からの短期留学生も参加したことで、学部生と協定校留学生との交流が実現でき、協定校間のリソース共有と関係強化に貢献した。

7月4日は「言語と文化現地研修」科目履修者を対象に、一部の学生が夏季休暇に訪問するハワイの観光産業について説明がされ、学生の事前学習に役立った。

7月10日昼休みの時間帯に行われた1年生アカデミック講演会には学生と教員約190名が参加し、ハワイ大学マノア校観光産業マネジメント学部で行われている観光教育について詳細な紹介があり、学生の留学意欲喚起と動機づけに効果が大きかった。講演終了後、学生が講師を囲んで質問を通して意見交換も行われた。7月15日に演習で開催したワークショップにも、同様の効果が現れた。

7月15日の研究科修士論文中間報告指導では、院生との意見交換が実現した。

次いで、ハワイ大学マノア校観光産業マネジメント学部は本学観光学部と学部間協定を締結しており、本学部において交換留学の一番選ばれる留学先であるため、SEO 氏の訪問によって、学生の留学先に対する理解と認識を深めること、そして今後両学部の交流活動を維持することに対して大いに貢献した。

（特記事項）本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。

ハワイ大学マノア校観光産業マネジメント学部は本学観光学部と学部間協定を締結している。SEO 先生の今回の訪問は、本学部および本学との関係を維持・強化において重要な役割を果たした。加えて、一部の授業と活動には観光学部協定校のベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）とタマサート大学（タイ）からの短期留学生も参加したため、協定校間のリソース共有と関係強化にも貢献した。